

貝 殻

蕪 木 寿 江

園の子ども達は九時迄に来ることを再び約束する。

五月四日

お母さんに手をひっばられてDちゃんが登園、四のバスも着いてお庭が子どもでいっぱいのところを、口をとがらして入って来る。九時四十五分「いやだと言うのを無理に連れてきたんですよ。出がけに電気屋さんが来るもんだから」と母親がしきりに言う。遅く来ると気嫌が悪く、理由もなく友達をたたいたり遊びの邪魔をする。池を造って砂場で寝ころんでつかり、泥だらけになる。顔から足から洗い、洋服を全部とり替える。徒歩通

五月七日

「昨日はおばあちゃんの家へ行ったのよ」「お父さんと弟と子どもの国へお弁当持って行ったの」連休あけは、一人話したすとみんな競うように話しかける。だまっているDちゃんに顔を向けると、「おれねえ、お兄ちゃんにいじめられていただけ」と、ほそつと言う。

五月十一日

風が少しあったが、れんげの田んぼに行く。Dちゃん
と手をつなぐのがいやだと言ってAちゃんが泣く。Sち
ゃんに代わって貰い先頭になって歩く。少なくなつたれ
んげ草も寒い日が続いたせいか今が満開、田んぼの畝の
処に寄って咲いている。女の子はお母さんに持っていく
んだと言って、たんぼぼと合わせて花束にしたり、腕輪
や、首飾りを先生と一緒につくっている。男の子は青蛙
を追いかけるのに一生懸命だ。Dちゃんも夢中で走って
いる。「蛙は見つけた人のもの？ それとも掴えた人の
もの？」と聞く。自然の中につかっていると、それだけ
で豊かな気持になってくる。

五月十四日

「一人足りない」と言うのでKちゃんのチームに入る。
まだサッカーのルールは理解するところまではいって
いないが、土の上に大きく石で書いていたスコアを、こん
どは「紙になん対なにと書いて」とSちゃんが説明す
る。ボール紙でつくり、椅子にぶらさげる。Hちゃんが

係になる。ボールが庭の隅まで飛んでいくのでなかなか
点数にならない。Dちゃんが「入れてー」と走ってくる
と、Kちゃんが「Dちゃんが入るのならやめる」と言っ
てさっさと行ってしまふ。他の友達もついて行ってしま
う。Dちゃんと二人でボールを蹴る。

五月十九日

「おい、M夫ー」の声に振り向くと、もうDちゃんのげ
んこつが飛んでいる。M夫がぶらんこをぶつけたと言っ
て怒る。「そうじゃあないよ、Dちゃんがぶらんこのう
しろを通つたんだよ」と泣きながら話す。隣のぶらんこ
のNちゃんも「Dちゃんが悪いよ」と言う。「間違えち
やったのよね。こんどは黄色い柵の前を通るわよね」と
背中を撫でてでも泣き声は大きくなるばかり。ぶつかった
腕が赤くなっている。Yちゃんが二本の指を舌で濡らし
てはDちゃんの腕をぬらししている。何度も何度もつばを
つけている。Dちゃんの泣き声も止まってくる。はんか
ちで涙を拭いてあげると、Yちゃんもズボンのポケット

から自分のはんかちをだしてそれを横にたたんで、Dちゃんの腕を縛ろうとする。回らないので三角にしてから折りなおして渡すと、Yちゃんがしっかりと一つ縛ってあげる。そして二人して砂場にいき、黙々として山をつくっている。やっとできたトンネルの中で結わいたはんかちの腕がのび、手と手が何を囁やいているのだろう。

五月二十一日

「おはよう」もそこそこに、Dちゃんがぶらんこに走っていく。たいして漕ぐわけでもなく座っている。隣のぶらんこが空くと急いで鎖を握り、二つのぶらんこを独占する。バスが止る度に門の方を見るが、同じ姿勢で座っている。やがてYちゃんの姿が見えると「おーい、ぶらんことおいたよ」と叫ぶ。二人でしばらく漕いでいる。

五月二十三日

Dちゃん、ぶらんこに乗ってYちゃんの来るのを待

つ。きょうは立ち乗りで勢よく漕ぎながら、ときどき門の方を見ている。Yちゃんが来ると、さっと自分が降りて乗せる。揺れるぶらんこに向ってDちゃんが何かしゃべっている。Yちゃんの傍にいと安心したような顔になる。

五月二十五日

Yちゃんがビニール袋一つ取りに来た。Dちゃんがビニール袋を二つ取りに来た。同じ遊びを二人しているのに、二つ取りにきたDちゃんが嬉しい。Yちゃんの持っていった袋をDちゃんが返しに来る。砂の中のちいぢやな貝殻を見つけては、自分の袋とYちゃんの袋に入れている。四月に転園してきたYちゃんもDちゃんのおかげで外で遊ぶようになる。

五月二十六日

T夫がM子を泣かしたと言ってDちゃんがT夫の髪の毛をひっばって離さない。「だってこいつが悪い」と言

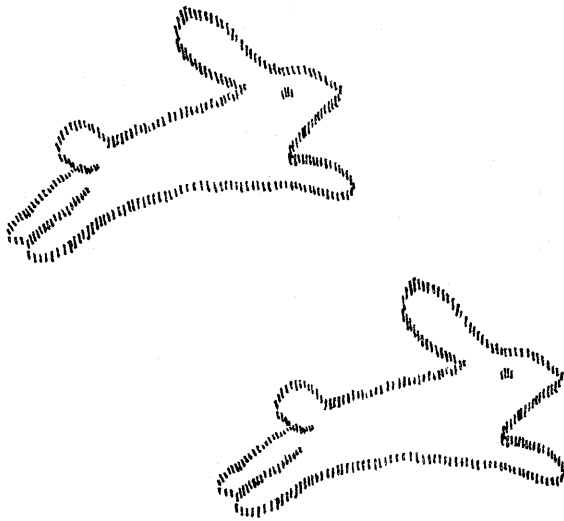
ってあとにひかない。朝遅く来るとどうしても調子が悪いような気がする。きょうはYちゃんの家へ行く約束をしたんだとみんなに言っている。「お母さんのおっぱいの病気（乳腺炎）が癒ったんだよ」と言うが、二十分余りもかかるところまでどうやっていくのだろう。

五月二十八日

Dちゃんが「Yちゃんと絶交切った」と言う。すべり台に乗るのに、あとから上って、先にすべるからいやだとYちゃんが言っている。帰りにはブロックでそれぞれに飛行機をつくって滑走路の上を走らせていた。「きょうはYちゃんの家を迎えに行つて僕の家で遊ぶんだよ」と話している。

五月三十一日

「六時に起きたんだよ。おばあちゃんがパンを焼いてくれたの」とDちゃんが私の腕の中で話す。九時迄に来ると走つて来るDちゃんを抱っこして頬べたをつける。



（少し位、遅くなってもおまけをするが……）母親にとつては一才の弟がいて大変だろうと思うが、口で約束するよりもずっしり重い抱っこの方が、お互いに身に伝える。

（神奈川県・市が尾幼稚園）